

津市架け橋プログラムの実施に向けて ～学びの芽生えから生涯の豊かな学びにつなげる～

令和4年6月29日開催

第48回津市総合教育会議

津市架け橋プログラムの実施に向けて

① 津市の幼小連携これまでの取組

(1) 幼小人事交流

平成14年度

- 「津市公立幼稚園教員小学校派遣研修事業」

※幼稚園教諭が入学時期からの4か月間の児童の様子を観察し、小学校生活に慣れていく過程から指導の在り方を研修

- 「津市小学校教員幼稚園派遣研修事業」

※小学校教員が入学前の3学期の園児の様子を観察し、幼稚園の指導の在り方を理解し、円滑な接続にむけての研修

平成15年度から20年度

- 「津市立幼稚園教諭と小学校教員の人事交流」

※小学校教育と幼稚園教育の相互の理解を深め、相互の教育活動の充実を図るための人事交流（2年間2名ずつ）

(2) カリキュラム作成

- 「津市乳幼児カリキュラム」 (H16年度) 0歳児から5歳児対象 ※幼稚園と保育所の職員で作成
- 「津市5歳児カリキュラム」 (H16年度) 「言葉」「数量・図形」 津市立教育研究所の研究の一環
- 「スタートカリキュラム」 (H16年頃、H24年度頃) 入学後2週間のカリキュラム※人事交流教員で作成
- 「各中学校区人権教育カリキュラム」 (平成27年度頃) ※各中学校区ごとに作成
- 「津市幼児教育・保育カリキュラム」 (平成30年～令和2年3月) 幼稚園、保育所、認定こども園で活用
※津市教育委員会事務局と津市健康福祉部で共同作成

(3) 公私立保幼小合同研修会の開催

(4) 各学校区での交流、連携の実施

津市架け橋プログラムの実施に向けて

② 幼児教育と小学校教育の連携について

幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会～審議経過報告より～

(中央教育審議会 初等中等教育分科会)

(1) はじめに

- 「令和の日本型教育」を目指し、質の高い学びに向けた取組を推進するため、幼児教育の質的向上と小学校教育の円滑な接続を図り、接続期の教育を充実
- すべての子どもに学びや生活の基盤を保障するための方策や体制整備等を審議

(2) 背景

- 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領と小学校学習指導要領に、連携による円滑な接続を重視
- 新型コロナウイルス感染症による学びや生活への影響、デジタル化への対応
- 特別な配慮を必要とする子どもへの対応
- 持続可能な社会の作り手の育成の重要性

(3) 課題

- ①幼児教育の質に関する社会や小学校等の認識の共有
- ②0から18歳まで見通した学びの連続性に配慮しつつ、幼保小の接続期の教育の質を確保するための手立ての不足
- ③格差なく学びや生活の基盤を育む重要性と多様性への配慮
- ④教育の質を保障するために必要な体制等
- ⑤教育の機会が十分に確保されていない子どもや家庭への支援

幼児教育と小学校教育の連携・充実 ⇒ 架け橋プログラムの実施³

津市架け橋プログラムの実施に向けて

③ 乳幼児期からの学びの連続性

小学校教育

各教科等の学習内容の系統的な学び

- ・自覚的な学び
- ・各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程
- ・到達目標「～できるようにする」等
- ・教科カリキュラム（学問の体系を重視）
- ・学級、学年等
- ・時間割に沿った一日の流れ



接続期

スタート期

アプローチ期

5領域

3歳未満の保育

4

主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出す

生活科

体育

音楽

国語

算数

特別活動

道徳

図画工作

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字等への関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康

言葉

環境

5領域

人間関係

表現

幼児教育

遊びや生活を通した総合的な学び

- ・学びの芽生え
- ・5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）
- ・方向目標「～を味わう」「～を感じる」等
- ・経験カリキュラム（生活や経験を重視）
- ・個人、友達、小集団
- ・子どもの生活のリズムに合わせた1日の流れ



生涯にわたる人格形成にとって極めて重要な時期

- ・十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること
- ・**非認知能力**の基礎が乳幼児期に育つ
- ・この時期の保育には、愛着行動、基本的信頼感、自己肯定感の育ちを意識した展開が不可欠

3歳未満の保育

津市架け橋プログラムの実施に向けて

④ 生涯の学びにつながる資質・能力が育まれる幼児教育

乳幼児期は生涯の**学び**や**生活の基礎**を育む**重要な時期**

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

健康な心と体

見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

自立心

工夫しながら諦めずに、自分の力でやり遂げる体験などを通じて自信をもって行動するようになる。

協同性

友達と一緒に目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

道徳心・規範意識の芽生え

よいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになる。きまりをつくったり、守ったりするようになる。

社会生活とのかかわり

家族を大切にしようとするとともに、身近な人と触れ合う中で自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、遊びや生活に必要な情報を役立てて活動したり、公共施設を利用して、社会とのつながりを意識するようになる。

思考力の芽生え

身近な事象から物の性質などを感じ取ったり、予想したりして、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自分の考えをよりよいものにするようになる。

自然とのかかわり・生命尊重

自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、生命の不思議さなどに気づき、動植物を、命あるものとしていたわり、大切に作る気持ちをもって関わるようになる。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、興味や関心、感覚をもつようになる。

言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

5歳児から小学校1年生の**接続期の教育のつながり**を意識し、**主体的・対話的で深い学びの実現**をするために

津市架け橋期カリキュラムの作成・実施

津市架け橋プログラムの実施に向けて

⑤津市架け橋プログラムの目指す方向性

これまでの津市の幼小連携の取組から

課題

- 多くの幼稚園及び小学校が、幼小連携の在り方に課題意識を持っている。また、各校・園における連携の必要性に関する意識の差がある。
- 幼小連携が、行事の交流等にとどまり、資質・能力をつなぐカリキュラムの編成・実施が行われていない場合が多い。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解が十分でなく、到達目標と誤解され、連携の手がかりとして十分機能していない。
- 小学校の取組が、教育方法の改善に踏み込めていない。
- 教育の質に関するデータに基づき、幼児期・接続期の教育の質の保障を図っていくための基盤が弱い。

架け橋プログラムの主なねらい

- 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、幼児教育と小学校教育の関係者が連携し、それぞれのカリキュラム・教育方法の充実・改善にあたる。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方法の改善に生かしていくことができる手立てを考える。
- 架け橋期に幼稚園で行っている環境の構成や子どもへの関わり方に関する工夫等を見える化し、家庭や地域にも発信する。

津市架け橋プログラムの実施に向けて

⑥津市架け橋期カリキュラムの作成・実施

津市架け橋プログラムの目指す方向性(3年計画)

架け橋期(5歳児から小学校1年生の2年間)カリキュラムについては、幼保小が協働し、共通の視点をもって教育課程や指導計画等を具体化できるよう「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにし、目指す資質・能力を視野に入れながら、各校・園と一緒に作成し、幼保小の職員と一緒に振り返って評価し、改善・発展させていく。

※5歳児…それまでに培ってきた経験を活かしながら新たな課題を発見し、新しい方法を考えたり、実現したりしようとする時期

※小学校1年生…自分の好きなことや得意なことがわかってくる中で、それ以降の学びや生活へと発展していく時期

【令和4年度】津市架け橋期カリキュラムの開発

津市架け橋期カリキュラムの開発在り方検討委員会

- 相互の教育の内容や方法に関する理解の改善・発展
- 園・小学校と関係機関及び関係団体との連携
- ワーキング会議の協議内容等検討
- 入学当初の小学校1年生の実態把握アンケート実施
(委員の構成)学識経験者、幼稚園・小学校長代表、幼稚園・小学校教員代表、幼児教育アドバイザー
教育委員会事務局・健康福祉部関係課職員

津市架け橋期カリキュラム検討ワーキング会議

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに実践・交流・協議
- カリキュラムの作成
(ワーキングメンバー)幼稚園教諭、保育士、保育教諭、小学校教諭
私立関係職員、指導主事、幼児教育アドバイザー
教育委員会事務局・健康福祉部関係課職員等
※必要に応じて、保護者代表にも参加依頼

【令和5年度】津市架け橋期カリキュラムの検証

- モデル小学校区における津市架け橋期カリキュラムの実践・検証
- モデル小学校区の取組実践報告会の実施
- 津市架け橋期カリキュラムの見直し・完成

【令和6年度】津市架け橋期カリキュラムの実施

- 各校・園において、架け橋期カリキュラムを作成・実践
- 実践交流会を実施



津市架け橋プログラムの実施に向けて

⑦ 津市架け橋期カリキュラム掲載事例

遊びや生活の中で出会う興味や関心に沿ったICT機器の活用

主体的な活動の中で「見る」「調べる」「共有する」といった活動の広がり

- 教員と一緒にICT機器を活用して、自分たちの思いの実現のために、試行錯誤したり、想像を膨らませたりしながら、役割や手順、時には上手くいかない経験もしながら解決策を模索するなど、生活の中で**思考力の芽生え**が育まれる。
- 個人の体験で留まらず、集団とのやり取りの中で、情報収集、対話、探求心を生み出し、体験と体験をつなぐことで、**学びに向かう力**につながる。

幼稚園での活動

遊びや生活を通した総合的な学び
ICT機器を活用した幼児の豊かな体験



「カメはどんなところに住みたいのかな？」

カメに愛着を持ち、餌やりなどの世話をする中で、カメが冬眠するところを探す姿
文部科学省「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料より」

津市立幼稚園19園

47台のタブレット端末を導入（各学年1台）

令和4年度6月補正予算

ICT化推進事業 3,790千円

（歳入）公立幼稚園への教育支援体制整備事業補助金（国3/4）

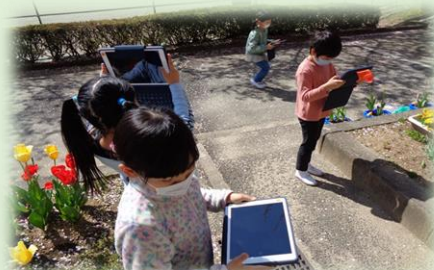
2,842千円

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金

758千円

小学校での活動

各教科等の学習内容の系統的な学び
タブレット端末を活用した個別最適化・協働的な学び



「春を見つけよう！」

生活科の時間に校庭に出て、春を感じながら自分で見つけた春（花や虫等）を、一人一台タブレット端末で写真に撮って、友達に紹介する活動

津市立小中・義務教育学校70校

（令和2年度）児童生徒一人一台のタブレット端末を導入

小学校：13,902台

中学校：6,556台

高速ネットワークの整備

（令和3年度）各教科等において積極的な活用

（令和4年度）各教科等において効果的な活用